

「水循環都市東京宣言」

2015 年 8 月 7 日発表



「水循環都市東京宣言」について

2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会にむけ、江戸の歴史資産である玉川上水を活かし、歴史と品格を備えた世界一の水循環都市を実現するため、五大学が連携してシンポジウムを連続開催した。

東京は、多摩川扇状地の上に火山灰が堆積した武蔵野台地の東端と、利根川・荒川の下流域との接点に位置し、16 世紀末から 17 世紀にかけて利根川東遷・荒川西遷、江戸湊、玉川上水などが実現され、18 世紀には人口百万人を超える世界最大の水都となった。

明治以降、西欧に倣い近代の治水、上水道・下水道事業を推進した。しかし、戦後の高度成長期に急速な都市域の拡大と産業構造の転換に直面し、水資源の逼迫、都市水害の増大、深刻な水質汚濁、地下水位の低下と地盤沈下などの社会問題に直面した。

1964 年オリンピック東京大会を契機として、利根川や荒川から東京への導水、東京中の水路の暗渠化、日本橋川を覆い隠す高速道路の建設などが行われ、現在の東京の水循環と水辺環境の原点が創出された。その結果、人々の意識は水から遠ざかることとなった。

現在、日本は人口減少と高齢化、未曾有の大規模災害への備え、気候変動など新たな課題に直面しており、水循環の分野においても大きな転換期を迎え、2014 年に水循環基本法が公布され、2015 年 7 月 10 日に「水循環基本計画」が閣議決定された。

また、東京都においては、「世界一の都市・東京」を目指して長期ビジョンが発表され、東京の健全な水循環の回復を図るため、2015 年度中に水マスタープランを策定することが発表されている。

この機に、「水循環都市東京シンポジウム」の議論を踏まえ、別紙のとおり「水循環都市東京宣言」を発表する。

「水循環都市東京宣言」

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を契機とし、水都東京にふさわしい健全な水循環を維持、または回復して、世界一の水循環都市東京を実現したいと考える。

水循環都市とは、大地で雨を受けとめ、生命を育む森を守り、常に人々の暮らしとともにある水環境を未来世代へよりよく引き継げるように不断の努力を続ける都市である。

そのため、東京においては、以下の視点を大切にして水循環が再生されなければならない。

- 一、 自然の力を生かした水循環の再構築
- 二、 歴史的な資産の活用
- 三、 身近な水循環の復活

そして私たちは、民・産・学・官が協力し、後世に誇れる新しい歴史資産を形成するとともに国際貢献にも資するよう、以下の具体策が実現されることを目指したい。

1. 玉川上水に河川水を流し、その機能を復活させる。そのため、源流域の森林を適正に管理するとともに、荒川の上流から多摩川への自然流下などを多面的に検討し、実現する。
2. 復活された玉川上水からのきれいな水の流れを利用し、水都東京への更新を促進する。
 - イ. 江戸城外濠を浄化し、歴史的景観の中で水とふれあえ憩える空間として再生する。
 - ロ. 日本国道路元標のある日本橋と日本橋川の歴史的景観と美しさを再生し、世界に誇れ、品格のある水辺空間として整備する。
 - ハ. 江戸城外濠を構成していた汐留川の面影が感じられるように都市水路を整備し、その一貫として新虎通りにせせらぎ水路を象徴的に整備する。
- ニ. 水環境が改善される神田川下流域において、まちづくりと一体となった治水対策を講じる。
- ホ. 玉川上水は、渋谷川の源流の一つであり、新国立競技場の敷地内を流れていた。前東京大会で暗渠となったが、渋谷川を開渠（せせらぎ水路）として復活させる。
- ヘ. 玉川上水分水網に水を流し、下流の小川を再生する。

3. ゲリラ豪雨対策として都市雨水処理施設の整備を急ぐとともに、河川・下水道一体の実時間観測・浸水予測情報を人々に提供する最新鋭の仕組みの開発を推進する。
4. 緊急時における河川水利用規則も含め、首都直下型地震等の際の延焼拡大防止、生活・復興用水確保に資する水循環システムを構築する。
5. 日本の水循環インフラとそのシステムは、海外インフラビジネスにおいても国際貢献の一翼を担う重要な分野である。産学官が連携して、訪日者に模範となる施設やシステムを紹介するとともに、海外に適用・展開できるよう研究開発や仕組みづくりを行う。
6. 水都東京にふさわしい歴史・文化・伝統の振興を図り、世界の人々にも披露する。
7. 日本の土木遺産や建築遺産は、世界に紹介されるべき歴史資産である。その象徴として、玉川上水などの歴史資産が世界遺産になる努力と準備を行う。
8. 河川や運河の耐震化や海面上昇対策を急ぐとともに、舟運で周遊できるよう施設を改良する。非常時の円滑な機能を実現するため、防災船着場を常日頃から開放する。

以上の視点と具体策が、東京都が作成する水マスタープランや、「水循環基本計画」に基づいた東京に係る流域水循環計画に位置づけられ、関係者が協力して行動を起こすことを期待する。

水の歴史とともに歩んできた東京を、美しく再生して後世に引き継ぐことが、私たちに課せられた使命であるから。

平成27年8月4日

水循環都市東京シンポジウム実行委員代表一同

水循環都市東京シンポジウム実行委員代表一同

中央大学教授	山田 正	(総括実行委員長)
法政大学教授	陣内 秀信	(実行委員長)
日本大学教授	天野 光一	(実行委員長)
東京理科大学教授	宇野 求	(実行委員長)
東京大学教授	沖 大幹	(実行委員長)
日本大学非常勤講師	細見 寛	(事務局)
法政大学兼任講師	神谷 博	(事務局)
中央大学専任研究員	寺井しおり	(事務局)

水循環東京宣言（概要）

三つの視点

- 一 自然の力を生かした水循環の再構築
- 二 歴史的な資産の活用
- 三 身近な水循環の復活

八つの具体策

- 1 玉川上水に河川水を流す
- 2 玉川上水からの水の流れを利用し、水都東京への更新を促進
- 3 河川・下水道一体の実時間観測・浸水予測情報を人々に提供
- 4 緊急時の水循環システムの構築
- 5 日本の水循環施設やシステムを訪日者に紹介
- 6 水都東京にふさわしい歴史・文化・伝統の振興
- 7 玉川上水などが世界遺産になる努力と準備
- 8 舟運で周遊できるよう施設を改良、防災船着場を常日頃から開放

- イ.江戸城外濠：歴史的景観の中で水とふれあえ憩える空間の再生
- ロ.日本橋川：世界に誇れ、品格のある水辺空間整備
- ハ.汐留川：都市水路整備
- ニ.神田川下流域：まちづくりと一体となった治水対策
- ホ.新国立競技場：開渠（せせらぎ水路）として復活
- ヘ.玉川分水網：小川再生

水循環都市東京



東京水循環大循環図

